

媒体名: Fuji Sankei Business i
掲載日: 2007年2月19日
出版社名: 日本工業新聞社

発達障害児を支援

環境対話
キャンプ開催

LD（学習障害）児やADHD（注意欠陥多動性障害）児童などと呼ばれる、軽度発達障害児の脳を活性化させることを目的とした「環境対話キャンプ」が2月16～18日の間、神奈川県三浦市の県立三浦ふれあいの村で開かれた。主催は倉敷市立短期大保育臨床専攻の平山論教授の「環境対話キャンプ本部」。平山教授は、脳科学を活用した、軽度発達障害児の指導や教育相談などを研究している。キャンプでは、人的・物理的環境を制御して脳の活性化を目的に

行われる教育的手法を実践した。学生ボランティアやトレーナーで構成された約50人のチームに、約25組の親子のペアが参加。子供の状態を「評価」するパソコン課題や、音楽にのって体を動かしたり歌ったりすることで楽しみ脳や神経系に働きかける「サイコモーター」と呼ばれる運動、親同士の子育て相談や話し合いなどを行った。キャンプでは脳細胞の成長を促し活性化されるといわれる大豆由来の「リパミンPS」を取り入れた食育プログラムを行っている。